

Chapter3 【介護福祉系 DVD 教材テキスト】



きっかけは2009年に開催された認知症国際フォーラム「認知症に東洋医学が挑む」でした。



現状は行動・心理症状の緩和に重点がおかれているが、それでは、中核症状に対して鍼灸治療で何ができるか？



基本的にはお一人お一人のご高齢者に対するサポート、この施設で認知症の方への対応の仕方を教わりました。



千葉県浦安市にある介護付き有料老人ホーム
株式会社舞浜倶楽部 富士見サンヴァーロ
北島学施設長による認知症ケア理念の紹介



舞浜倶楽部の理念は「人格の尊厳」、ご利用者のQOLを守ること。スウェーデンの認知症ケアのノウハウを取り入れながら、東洋医学の鍼灸による緩和も取り入れている。

時間	場所	ケア内容	手順	注意事項
6:30	居室	1. 起床 2. 洗顔 3. 髭剃り 4. 整容	1. 声掛け→状態確認 →介助→端座位 2. 声掛け→タオルを お湯で温める→顔を 拭く 3. 声掛け→髭剃り→ 剃り残し確認 4. 声掛け→髪を整え る→衣服のずれの 確認	1. いつもご本人が起 きる時間で時間設 定をしている。 起立性の貧血を起 こさないよう本人 のペースに合わせ 介助。 2. 現在はご自身で出 来ないので介助す る。 3. 特になし。 4. 社会的な場所へこ れから行くことを 伝え、その為の整容 を行うことを伝え る。

～まとめ～

朝は一日が始まる大事な時間帯です。今までの本人の生活スタイルを崩すことなく、現在の状況を鑑み、対応していかなければいけません。今までの生活スタイルと現在の生活スタイルのずれが大きいと認知症の症状が悪化したり、症状の進行が早くなる場合があるので、注意が必要です。言葉で発することは難しくなってきましたが、表情や仕草をキャッチしながらコミュニケーションをとっていくことが出来ます。いつもの時間、いつものルーティンはご本人にとって生存的な側面からのアプローチに繋がります。舞浜倶楽部のケア方針であり、緩和ケア理念でもある4つの柱と4つの側面を意識した関わりが大事です。





いつもご本人が起きる時間で時間設定をしている。起立性の貧血を起こさないよう本人のペースに合わせ介助



「気分は悪く無いですか」、「大丈夫ですね」、「それでは車イスのほうに移動します」と声掛けをしている。



「気分は悪く無いですか」、「大丈夫ですね」、「次はひげを剃りましょう」と声掛けをしている。



現在のご自身で出来ないなので介助する。



社会的な場所へこれから行くことを伝え、その為の整容を行うことを伝える。



タオルをお湯で温めて顔を拭く。

時間	場所	ケア内容	手順	注意事項
7:00 7:30	談話コーナー 談話コーナー	1. 水分補給 2. 食事介助	1. トロミをつける→ 声掛け→介助（お 茶）→介助（ヨー グルト）→水分チ ェック 2. 声掛け→水分一口 →バランスよく介 助	1. 朝の覚醒、そしてこ れから食事が始ま るので、お茶を先に 飲むことでのどを 潤す。ヨーグルトは 便秘予防の為に召 しあがってもら う。なるべく薬に頼 るのではなく食べ物 で予防する。 2. 食事の形態はお粥 +ご飯ミックス+ 一口大で現在の本 人に合わせた食事 形態を提供。現在常 食に戻すためのス テップアップを図 っている。食事をし ている時の声掛け （食事を楽しめる） を行う。

～まとめ～

起きてすぐに食事を摂るのではなく、飲み物を飲んで頂き口の中を潤して戴きます。口の中を潤すことで、飲み込みがスムーズになり、誤嚥を予防することも出来ます。また、朝の一杯は人によってコーヒーであったり、紅茶であったり、お茶であったり様々です。これもご本人の生活暦を把握し、今までの暮らしの継続を意識することが重要です。

食事もただ食べて戴くのではなく、食事の説明から始まり、食事の雰囲気作りを行います。ご本人にとって食事をする環境がマッチしていないと食事量が落ちる場合もあります。認知症の介護ではただ単に介護技術を身につけて実践すれば良いのではなく、色々な側面からのアプローチが大事になります。

食事の形態も管理栄養士と調理師と日々相談しながら実施しております。食事の内容も季節の食材を取り入れたメニュー作成を意識しております。食事の見た目や、味等で見当識障害に対するアプローチを図ることが出来ます。



暮らしの継続

ご本人の生活暦を把握し、今までの暮らしの継続を意識することが重要です。



朝の覚醒、そしてこれから食事が始まるので、お茶を先に飲むことでのどを潤す

朝の覚醒、そしてこれから食事が始まるので、お茶を先に飲むことでのどを潤す。



ヨーグルトは便秘予防の為に召しあがってもらうなるべく薬に頼るのではなく食べ物で予防する

ヨーグルトは便秘予防の為に召しあがってもらうなるべく薬に頼るのではなく食べ物で予防する。



食事の形態はお粥+ご飯ミックス+一口大で現在の本人に合わせた食事形態を提供

食事の形態はお粥+ご飯ミックス+一口大で現在の本人に合わせた食事形態を提供する。



現在常食に戻すためのステップアップを図っている食事をしている時の声掛け(食事を楽しめる)を行う

現在常食に戻すためのステップアップを図っている。食事をしている時の声掛け（食事を楽しめる）を行う。

時間	場所	ケア内容	手順	注意事項
8:30	居室	1. 口腔ケア 2. 排泄ケア	1. 声掛け→ハミング →ペーパーでぬぐう→歯ブラシ →ペーパーでぬぐう 2. 声掛け→移乗→臥床→排泄確認	1. 食べ残しがあると菌が繁殖しますし、誤嚥性肺炎になる可能性もある。歯ブラシを使用することで今までの継続を図る。 2. 今まで食事の後にいていたのでこのタイミングで実施。体力低下によって長時間車椅子に乗っているのが体にも負担がかかるので、離床と臥床を1日の中で交互に行い、メリハリをつけている。

～まとめ～

食事の後はこれもまた今までの本人のペースに合わせます。人によっては歯磨きのみで終わる人、トイレに行った後に歯磨きをする人と個人によってまちまちです。口腔ケアもスポンジブラシとペーパーのみでも口腔ケア自体は問題ないのですが、今まで自分自身で行っていた、歯ブラシを使用しての歯磨きを実施することで生存的な側面のアプローチを行います。トイレに関しても人によって1日の回数が違っていたり、出るタイミングも違います。本人の今までのデータを照らし合わせ、どのタイミングが有効なのか判断し排泄ケアを行います。施設全体の定時の排泄誘導ではなく、個人に合わせた定時の排泄ケア、いわゆる個別ケアを実践しています。



声掛け→ハミングッド→ペーパーでぬぐう→
歯ブラシ→ペーパーでぬぐう



食べ残しがあると菌が繁殖するし、
誤嚥性肺炎になる可能性もある。



歯ブラシを使用することで今までの継続を図る。



時間	場所	ケア内容	手順	注意事項
10:00	浴場	1. 入浴介助	1. 声掛け→バイタル測定→誘導→入浴介助	2. 事前に脱衣場と浴室の確認を行う。本人の身体能力を鑑みゆったり入ってもらうために機械浴。

～まとめ～

バイタルも人によってまちまちです。平均体温が高い人もいれば低い人もいます。ご本人にとっての平均を把握し測定しております。ここは看護師と連携をとり、データの報告、集計等してもらっています。ご本人に対するときは1対1対の個での対応になりますが、情報をチームで共有し、お互いの役割を把握し対応することで、チームアプローチを行います。

お風呂は清潔を保つ意味合いもありますが、精神的に安心したり、体の全体観察が出来たりと色々な面があります。現在のご本人の状況に合わせて入浴スタイルを変更しております。ご本人は今までお一人でご入浴されていた際はゆっくりと湯船に入られる方でしたので、現在の機械浴でもゆっくりと入って頂き、リラックスして戴いております。お風呂では生存的な側面と精神的な側面をアプローチしています。



入浴前のバイタル測定



多職種連携とチームアプローチ



事前に脱衣場と浴室の確認を行う。

本人の身体能力を鑑みゆったり入ってもらうために機械浴

時間	場所	ケア内容	手順	注意事項
11:00	居室	1. 水分補給	1. トロミをつける→ 声掛け→介助→臥 床→水分チェック	1. お風呂で体内の水 分が減っているの で水分補給を行う。

～まとめ～

本来であれば水分を摂って戴いた後、食事なのですが、ご本人の体力を考え一度横になってもらいます。お風呂がない時は12時からの食事ですが、お風呂がある時は時間をずらして召し上げてもらっています。

時間	場所	ケア内容	手順	注意事項
13:00	談話コーナー	1. 食事介助	1. 朝食と同じ	1. 朝食と同じ
13:30	居室	2. 口腔ケア 3. タクティールケア	2. 朝と同じ 3. 声掛け→施術	2. 朝と同じ 3. 部位

～まとめ～

タクティールケアはスウェーデン式のタッチケアです。認知症の症状の緩和や痛みの緩和に用いられています。タクティールを施術することでオキシトシンというホルモンが分泌されます。信頼と安心のホルモンと言われており、施術することで信頼関係が向上したりします。睡眠導入やリラクゼーション効果、また身体の認識作用もあり、定期的実施しております。このタクティールケアを導入している理由の一つは、タクティールが緩和ケア理念に即した内容となっているからです。タクティールケアを施術することで、身体的なアプローチを図っております。



昼食・食事介助



朝食と同じく、常食に戻すためのステップアップを図っている。食事をしている時の声掛けを行う。



タクティールケアはスウェーデン式のタッチケアです。認知症の症状の緩和や痛みの緩和に用いられています。



睡眠導入やリラクゼーション効果、また身体の認識作用もあり、定期的実施しております。タクティールケアを施術することで、身体的なアプローチを図っております。

時間	場所	ケア内容	手順	注意事項
15:30	談話コーナー	1. 水分補給	1. 朝と同じ	1. 夕食前なのでカフェインの豊富な紅茶を使用し覚醒を促す。

時間	場所	ケア内容	手順	注意事項
16:00	談話コーナー	1. 体操	1. 声掛け→体操	1. 入居者との交流を図ることで、社会性のアプローチをしていく。

～まとめ～

皆と一緒に取組むことで社会的なアプローチをしております。普段は機能訓練指導員が対応致します。機能訓練指導員は施設に来所される鍼灸師とのパイプ役でもあります。前回の鍼灸の施術からのご本人の状況を伝えていきます。その情報を元に施術をしてもらっています。1週間に一度の関わりになりますが、ご本人の情報を正確に伝え共有することで、チームとしての取り組みが可能になります。

～総括～

1日の生活の中で身体的・精神的・社会的・生存的な側面からアプローチをしていくことは認知症高齢者の生活の質を向上させる為にとっても重要です。普段からその4つの側面を意識してケアに取り組んでいます。

また、4本の柱と呼ばれる、コミュニケーションと関係、症状のコントロール、家族支援、チームワークも重要です。ご本人とのコミュニケーションは当然ながら、ご家族とのコミュニケーションも重要です。私たちは残念ながら家族になることは出来ません。やはりご家族の力は大きいものがあります。ただ、家族に完全に頼るのではなく、ご家族もチームの一員として一緒に取組んでもらえるのが理想です。その中に家族支援が含まれてきます。今までのご本人の生活を継続し、現在の症状を把握確認しながら、本人にあったケアを提供していくことが大事です。

ようは、4本の柱を意識し、4つの側面でアプローチを行い、本人を中心としたケア、パーソンセンタードケアを実践していくことが、認知症ケアだと考えております。



1日の生活の中で身体的・精神的・社会的・生存的な側面からアプローチをしていくことは認知症高齢者の生活の質を向上させる為にとっても重要です。普段からその4つの側面を意識してケアに取り組んでいます。

ご本人とのコミュニケーションは当然ながら、ご家族とのコミュニケーションも重要です。私たちは残念ながら家族になることは出来ません。やはりご家族の力は大きいものがあります。



4本の柱を意識し、4つの側面でアプローチを行い、本人を中心としたケア、パーソンセンタードケアを実践していくことが認知症ケアだと考えております。



鍼灸治療の基本的な姿勢



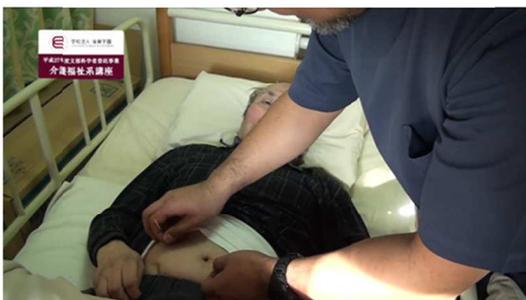
週1回の鍼灸治療によるサポート



しっかりと見る、目と目をしっかり合わせる。



しっかりとコミュニケーションをとる。



我々の専門職種の大きな特徴は、1つは触れること



見る、話す、触れるをベースに鍼灸治療によるサポート



認知症の方としっかりとした信頼関係を自然に構築



焦らずゆっくりと始めることが重要



施設の介護職員から鍼灸師さんへのメッセージ



【メッセージ】

鍼灸の治療だけですとなかなか認知症の人に受け入れてもらえません。実際にここにいられている鍼灸の先生方は、始めはたわいのない会話から日常に入って行って、その方の日常に溶け込んで、それから治療をやられているのを目の当たりにして見えています。治療を受けることによって治療が終わった後に「すごく気持ちが良い」といった一言を頂いたりもしています。鍼灸の技術だけではなくて、そこまでに運ぶ懐（ふところ）の広い技術というものも必要になってくるのではないかと考えております。



施設のケアサービス課職員から鍼灸師さんへのメッセージ



【メッセージ】

まずはその方のことを良く知っていただくことが大事だと思います。今まで生きてこられた方の生活を大事にして寄り添いながらケアをしていただければいいなと思っています。皆さんが介護の知識なども得ていただくと、高齢者にとって介護する上でかなり満足をしていただけるのではないかなと思っています。